

あつし塾長の

子親のやる気



○○77

この連載もいよいよ最終章。ここから7回は、学校・家庭・社会を包含する「地域教育のあり方」のヒントを述べさせていただきたいと思います。

3月5日、青森県立高校前期入試の翌日。地元ラジオ局で担当している「教育相談コー

人生の予習

質問が寄せられました。「受験は前期と後期、どちらの方が『行きたい高校』に入れますか」という内容。前後期入試制度について子どもたちは学校で、「行ける高校」から「行きたい高校」へと説明を受けています。しかし、この「行きたい高校」の捉え方は、親の世代とは異なっています。ゆとり教育世代の子どもたちは学年

教えるべき備えは経験



豊かな想像力自身に付けて

な経験から、豊かな想像力は望めません。現実を目の当たりにして思考が停止し、一歩前に出るこ^とが大変難しいようです。

(畠山篤=志学塾塾長)



執筆は45歳
たくさんある
た」と話す

最終章・ゆとり教育世代の地域教育

の6割以上の人数が実業科ではなく、普通科

を「行きたい高校」と考

3月10日、前期合格発表の日、残念ながら

合格できなかつた塾生から「後期の出願先に

ついての相談を」と電話が入りました。青森

県では、後期は前期と異なる高校に出願可能

です。ランクを下げ

「行ける高校」にするか、前期で落ちた本来

の「行きたい高校」に再挑戦するか…。面談の席、本人が「どうすればいいか…」とボソ

ボソと話し始めました。高校入試で不合格。確かに本人にとっては人生初の大ショック

でした。ゆとり教育世代の子どもたちの中には

「備えもなければ憂い

もない」と頭を下げて席を立ってしまいました。

私はお辞儀をしながら見送りました。

後期入試直後、この

子は立派に感謝と抱負を体験談につづりました。

書いたのは、生活適応のための助けとしてされた手引書「

ガーネット群の

自分自身を見つめ直す機会に、放っておく。

すると驚くことに子は

じだけ言つてうつむいてしまいました。しばら

くして隣に座つてい

「備えあれば憂いなし」

となるように、塾では「入試は選抜だ。自分なり」の頑張りではなく、他人なりの頑張りを」と前日まで何度も

言ひました。私は「行きたい高校は?」と前日まで何度も

「受かるところに…」

と尋ねました。本人は「行きたい高校は?」

とだけ言つてうつむいてしまいました。私は「

「受かるところに…」

と言ひ聞かせ、取り組

りを」と前日まで何度も

言ひました。私は「

「行きたい高校は?」

と前日まで何度も

言ひました。私は「

「行きたい高校は?」

と前日まで何度も

言ひました。私は「

「行きたい高校は?」

と前日まで何度も

言ひました。私は「

「行きたい高校は?」

と前日まで何度も

言ひました。私は「

「行きたい高校は?」

面談は結論が出ず

終わりました。私は帰

り際、母親に「塾では子

どもを思つた通り導こ

うと思つたら、指導者

は押さずに引くことに

しています。親は、子

を諭すのではなく、自

分自身を見つめ直す機

会に、放つておぐ。

すると驚くことに子は

動いたりしますから。

大丈夫、お子さんは、道

理は分かっています。母

親は「前期で落ちたのは、

神様からの贈り物だと

思つておられます。帰つ

て父親を交じえ話して

みます」と涙を拭つて

お辞儀をされました。

私もお辞儀をしながら見送りました。

後期入試直後、この

特別指導